

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワナビー城南		
○保護者評価実施期間	2025年 2月1日		～ 2025年3月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 2月1日		～ 2025年3月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月1日		～ 2025年3月12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	2名とも教員免許を持っており、10年以上の教師経験があるため、学校の先生に理解や共感が得られやすい。	保育所等訪問支援だけでなく、多機能型の通所支援事業所を併用しているため、保育所・幼稚園・学校の先生から出された課題や相談・要求を、通所支援事業所で行いやすかった。(宿題や課題の共有、実施など)	実績を増やし、より具体的な提案を出したり、相談に乗ることができるようにしていく。 訪問する学校・幼稚園・保育園を増やし、信頼を得ることができるように取り組みを行っていく。 保護者から第三者視点を持って学校・幼稚園・保育園へ訪問することで、保護者と訪問先との間に入り意見を伝え、保護者・訪問先にとって有益となるよう、必要に応じて案内を行っていく。
2	幼稚園・保育園の先生方に小学校に向けての話を具体的にすることができる。具体的な相談として話してくれることが多かった。		
3	保護者に対して、訪問内容の説明を行い、課題の共有を図っていた。また、本事業所で実施できる部分は課題として行っていた。	必要に応じて報告書を作成を行っていた。保護者に一読してもらい、感想をもらっている。必要に応じて、訪問先にも提出し、同様に感想をもらい、継続的な支援に繋げている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育士・心理指導系職員が居ないため、幼稚園・保育園(児童発達支援関係)の訪問支援員が不足している。	小学校以上の教員免許所有者しか居ないため、放課後等デイサービス中心の話となりやすい。	保育士・心理指導系職員の訪問支援員の獲得。
2	この1年の訪問支援回数が総計8回と少ない。	事業所側の訪問支援員の不足、 保護者・訪問先の訪問支援制度の認知の不足	訪問支援員の獲得。 訪問支援制度の周知・宣伝。 有効的活用方法の提案。
3	マニュアルが無く、個人の裁量で訪問支援を行うため、訪問支援の内容にばらつきが生じる。	マニュアルが無い。 会議ではなく、個人間の打合せしか行っていない。	マニュアルを作成し、同一品質の支援を保障する。 会議(最低でも打合せの内容)の議事録(記録)を作成し、統一意識を持ちやすくする。